

2025 年 4 月 30 日作成 Ver1.1

《情報公開文書》

核医学治療病棟における環境放射能汚染の評価

研究の概要

【背景】放射性同位元素（以下 RI）を使用した悪性腫瘍の治療（以下核医学治療）は、副作用が少なくかつ非常に効果の高い治療として国内の複数の施設で行われており、長崎大学病院でも現在ヨウ素-131（以下 I-131）を用いた甲状腺癌の治療、ルテチウム-177 DOTATATE（以下 Lu-177 DOTATATE）を用いた神経内分泌腫瘍の治療を行っています。

一方、核医学治療は放射線を出す物質を利用するので、薬を投与された患者さん自身の体から放射線が発生するため、特別な病棟に入室するなどの配慮が必要となっています。また患者さんが退出した後の病室は体液等による放射能汚染が生じるため、次の治療の前に一定の期間を設けています。このような放射性物質への規制や厳重な管理が一因となり、核医学治療の普及は進んでいません。

【目的】本研究の目的は I-131、および Lu-177 DOTATATE を投与された患者さんが退室した後の核医学治療室の線量を測定し、比較検討することで、放射能汚染の実態を把握することです。

【意義】患者さんが退室した後の病室でどの程度、またどこに汚染があるかが詳しく分かれば、被ばくを低減するためにどの位の配慮をすればいいか決めることができます。

【方法】この研究では病室の中の複数の場所で、放射線の量を測定します。汚染の量に影響する情報として、投与した放射性物質の量を調べます。

対象

2024 年 4 月 22 日～2025 年 4 月 21 日までに長崎大学病院核医学治療病棟において I-131 および Lu-177 DOTATATE による治療が行われた病室を対象とします。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

- ・治療で投与された RI 量
- ・患者さんが退室された後の病室内・外の放射線量の測定値 を使用します

本研究では患者さんの診療録から情報は収集しません。

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

本研究は核医学治療室を対象とします。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2027 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学分野 氏名：井手口 怜子 住所：長崎県 長崎市 坂本 1 丁目 12-4 電話：095（819）7103
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等について】

長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 井手口怜子
 〒852-8523 長崎市坂本 1 丁目 12-4
 電話：095（819）7103 FAX 095（819）7104

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間 ：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）